

# 令和4年度 第1回



# MaOI

## セミナー

## 水産業における イノベーション

～持続可能な水産業に資する研究開発の現状と先進的な取組事例～

### 基調講演 中山一郎氏

水産研究最前線 水産国日本を復活  
させるにはどうしたら良いか

～水研機構の研究開発の現状を中心に～

### 事例発表講演 野原節雄氏

バナメイエビの陸上養殖技術

開催日 **2022年6月28日(火)**

時間 **14～17時**

会場 **ホテルグランヒルズ静岡  
4Fクリスタル**

静岡市駿河区南町18-1  
JR静岡駅南口より徒歩1分



ハイブリッド型セミナー  
会場参加

先着**50**名様のみ

オンライン参加

お申込みいただいた  
方全員

参加費 **無料**

**13:30** 開場・受付

**14:00** 開会挨拶

**14:05** 基調講演  
中山一郎氏

**15:05** 休憩

**15:15** 事例発表講演  
野原節雄氏

**16:05** 閉会挨拶

**16:10** 意見交換会  
(会場参加のみ)

**17:00** 完全退館

お問い合わせ・  
お申込み

参加ご希望の方は、下記ウェブ  
サイト、もしくは**2次元**バーコード  
から申込みください。

<https://qnr.maoi-i.jp/seminar/>



オンラインでのお申込みの方には  
開催日までに配信URLをご案内  
します。

申込み締切：**6月22日(水)**

お問い合わせは、**054-340-1800**  
又は[seminar1@maoi-i.jp](mailto:seminar1@maoi-i.jp)まで

## MaOIセミナー

### 基調講演

国立研究開発法人

水産研究・教育機構 理事長

中山一郎氏



## 水産研究最前線

### 水産国日本を復活させるにはどうしたら良いか ～水研機構の研究開発の現状を中心に～

我が国の水産情勢は、漁獲と漁業者の減少傾向は続き、非常に厳しい状況となっています。一方、世界を見れば、水産業は成長産業となっており、水産物の需要もさらに高まっており、養殖業をコアとして生産量も急速に上がっています。

しかし、世界規模の海洋環境の変化、長引くコロナ禍、そして円安、インフレによる国内の消費の停滞、買い負けやロシアのウクライナ侵攻影響等による輸入の減少等、ここ数年で日本の水産業を取り巻く環境は大きく変わってきています。

そのような中、国民の食料の安定供給は最重要課題であります。

我が国の水産業を、安定的、持続的に発展させるために、政府は2018年12月に、水産資源の適切な管理と、水産業の成長産業化を両立させる水産政策の改革を進めるため、70年ぶりに漁業法を改正しました。この水産政策改革の中で、水産資源の適切な管理を実現するための「資源評価」が主要な柱の一つとなっています。また養殖業成長産業化総合戦略も策定されました。さらに、将来にわたって食料の安定供給を図り、持続可能な食料システムを構築するため、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」が策定されました。この中でも、「新たな資源管理の推進に向けたロードマップ」に沿った水産資源の適切な管理、養殖業の持続的な発展が謳われております。本年に入ってから、水産基本計画も策定され、具体的な政策方向も示されました。

水産研究・教育機構は、本年創立125周年を迎え、世界的にもまれな総合的水産研究・開発機関として、これらの国の方策に沿って、水産国日本の復活に向けた研究開発活動を全力で展開しているところです。

昨年7月に産業研究機関として水産業に関わる技術開発研究の中心的役割を果たしイノベーションを起こして水産改革実現の一翼を担うために、これまでの9研究所で構成していた研究開発部門を「水産資源研究所」と「水産技術研究所」に再編し、その2研究分野に加えて開発調査センターを中心とする社会実装・企業化分野、水産 大学校を中心とする人材育成分野の4本を柱として研究開発を戦略的に取り組むこととしました。昨年より、第5期中長期計画も始まり、新体制での活動を始めたところです。当機構の研究開発の展開、展望を中心に、新しい養殖業振興に向けた研究等の今後の水産研究開発の方向性についてトピックの紹介と合わせて解説いたします。

## MaOIセミナー

### 事例発表講演

IMTエンジニアリング株式会社

技術研究所 所長 野原節雄氏



## バナメイエビの陸上養殖技術

日本へ毎年22万トン以上輸入されているエビは、東南アジア諸国で深刻な環境問題（餌の食べ残しや排泄物による海洋汚染、マングローブ林の伐採など）を引き起こしている。また、2012年ベトナム、中国で発生した新たな疾病（EMS）の蔓延により、その生産量は減少し、不安定な産業となりつつある。その為、環境への影響を最小化し、安全で持続可能な養殖エビを生産できる実用レベルの技術開発を産官コンソーシアムで進めて来た。テーマは4つあり、①生理学的研究によるバナメイ淡水養殖技術の確立、②エビのストレス評価・低減技術の開発、③高密度循環式エビ生産プラントの開発、④水質を悪化させない低価格餌料の開発である。この研究成果に基づき2007年から稼働している、新潟県の実証プラント、及び現在進行中の商業プラント建設について紹介する。

新型コロナ感染症対策のため、会場参加者にはマスク着用、検温、手・指の消毒をお願いします。

会場参加の方で37℃以上の発熱のある方、体調が優れない方のご参加はお断りします。

新型コロナ感染状況によってオンラインのみの開催となる可能性がございます。

オンラインで参加される方の通信料に関する費用はご自身での負担となります。

セミナー講演時の録音、スクリーンショット等は固くお断りします。

オンライン配信のリンクを第三者、またはSNSで共有しないでください。

【名称】一般財団法人マリンオープンイノベーション機構

【所在地】静岡市清水区日の出町9-25 清水マリンビル2階

【概要】海について学び、新たな恵みを見出して、多様な産業分野での新たな価値の創出や課題の解決に貢献するための活動に取り組んでいます。

○研究開発拠点『MaOI-PARC』におけるライブラリーやデータベースの整備、共同研究の支援

○産学官金の情報共有と交流を促進する会員制プラットフォーム『MaOIフォーラム』の運営等

お願い

## MaOI機構について



一般財団法人マリンオープンイノベーション機構

<https://maoi-i.jp>